

オピニオン opinion

株式会社山梨地質

代表取締役

松田 永司じょうじ氏



山梨の地形的リスクを踏まえた地域防災を

日本列島は、太平洋・北米・ユーラシア・フィリピン海という4枚の「プレート(岩盤)」が交わる上にあります。地震はプレートが移動することにより地下に発生した歪みが解放される際に発生するもので、その際に岩盤が割れてずれた面を「断層」といいます。過去に活動した形跡が観察できる断層を「活断層」といい、将来も活動すると考えられますが、地下に隠れていて観測できない断層もたくさんあります。日本列島自体が断層の巣のようなものですから、いつ・どこが地震の震源地となってもおかしくはありません。これまで樹木や建築物に邪魔されて正確に計測できなかった地表の高低差を、航空機から地表に照査したレーザーで正確に計測した「赤色立体地図」により隠れた断層を推定する技術が確立されはじめています。

普段、山梨で大地震が起こるとは想像していませんが、阪神・淡路大震災も東日本大震災も想定外の出来事でした。山梨の地形は山塊・丘陵・盆地と変化に富んでおり、地形が変化する部分には断層のあることが推測されます。地震の震源地となる可能性のある断層(特に丹沢山系に近い郡内地方)が多いという点で、山梨は地形的リスクを負っています。山梨に暮らすことを止めるわけにはいきませんから、地形的リスクを盛り込んだ地域ごとの防災計画が必要です。

そのためには、①県内各地にある自然災害に関する碑文や古文書を見直し過去の災害の実態を把握すること、②「赤色立体地図」をもとに地域ごとの地形・地質・地盤の調査を行い地形的リスクの予見に基づいた防災計画を立てること、③災害復旧工事を行う際も災害前の現状復帰ではなく地形的リスクを考慮した予防工事を行うなどの取り組みが必要だと思います。

安心して暮らせる山梨づくりのために、「自身を守る・地域を守る防災」という観点から、見えない地下を知ることが重要です。